



第 12 回 日本加速器学会 年会在開催されました

平成 27 年 8 月 5 日から 7 日にかけて、敦賀市のプラザ萬象およびあいあいプラザにおいて、第 12 回日本加速器学会年会在開催されました。この年会在は日本加速器学会が主催し、エネ研は共催者およびホスト機関として、事前の準備や会期中の会議運営を行いました。

年会在には、全国の加速器とその応用分野の研究者や技術者など約 500 人が参加し、研究開発成果の発表や、情報交換、さらには研究機関相互の交流や連携を深めました。

研究発表では、合同セッションと「ビーム診断・制御」や「ビームダイナミクス・加速器理論」などの 11 のカテゴリーで、加速器施設の現状や将来計画の報告などが行われました（口頭発表 63 件、ポスター発表 275 件）。エネ研からは、加速器室の羽鳥室長が、エネ研で稼働している加速器施設の歴史や概要について合同セッションで口頭発表し、栗田主任研究員が、エネ研のシンクロトロンの運転状況等についてポスター発表を行いました。

そのほかに、学会賞受賞の講演や超伝導空洞技術に関する技術研修会在開催されるとともに、施設紹介ポスター展示（31 件）や加速器関連機器製造メーカー等（50 社）による製品展示など多彩な企画で活発な意見交換が行われました。

年会在に先立つ 8 月 4 日には、エネ研、原子力機構レーザー共同研究所、もんじゅ、日本原子力発電敦賀発電所、関西電力美浜発電所の見学が行われ、参加者は原子力に関連した様々な施設の現状や歴史について、興味深く説明を聞いていました。

8 月 5 日には、特別講演として立命館大学古気候学研究中心長の中川毅先生が、「IntCal への道 —水月湖の年縞堆積物と ^{14}C 年代較正—」をテーマにご講演され、市民の方も多数参加されました。

会員相互の親睦を図るため 8 月 6 日に開催された懇親会在に合わせて、敦賀気比高校吹奏楽部による演奏が披露され、会場から大きな拍手が送られました。



歓迎の挨拶
(旭理事長)



企業展示の様子



ポスター発表の様子



特別講演
(立命館大学 中川センター長)



口頭発表の様子

原子力発電の安全に関するANSN講師育成研修<アジア7か国>を開催しました

平成27年7月27日から31日にかけて、国際原子力機関（IAEA）、福井県およびエネ研の共催で、「原子力発電の安全に関するANSN*講師育成研修」を開催しました。

この研修は、IAEAと協力して、アジアを中心とする世界の原子力安全に関わる講師人材の育成に貢献するとともに、有効な人的ネットワークを形成することを目的として実施するもので、エネ研での開催は、昨年に引続き2回目となります。

今回は、7か国から13名の研修生が参加し、IAEAや国内の専門家による計12の講義を受講しました。また、美浜発電所やあっとほうむ、オフサイトセンターなどの施設見学を行い、研修生たちは原子力発電関連のさまざまな施設が立地する福井県の状況を熱心に学んでいました。

研修生からは、「講義や討論会、施設見学を通して、より多くの知識や興味を得ることができた」といった意見がありました。 ※ANSN…アジア原子力安全ネットワーク



歓迎の挨拶（旭理事長）



IAEAの専門家による講義



あっとほうむ訪問

平成27年度「嶺南地域新産業創出モデル事業補助金」の二次募集を開始しました

エネ研では、福井県が推進するエネルギー研究開発拠点化計画（「産業の創出・育成」）の一環として、嶺南地域に事業所を有する企業の皆さまを対象に、原子力・エネルギー分野、地域産業活性化分野、環境分野に関連した新技術・新製品の研究開発を支援する制度として、「嶺南地域新産業創出モデル事業補助金」を実施しています。

この度、より多くの方にご利用いただけるよう、二次募集を開始しましたのでお知らせします。

（募集期間：8月17日（月）～9月17日（木））

制度名称	対象事業	対象者	補助額（補助率）	募集
嶺南地域 新産業創出 モデル事業	（基礎研究枠） 技術シーズの実用化の可能性を探索するための調査および基礎的な実験	製造業等ものづくりにより事業の展開を目指す以下の企業	200万円以下 （2/3以内）	8/17 ～
	（実用化研究枠） 実用化に向けた試作品・試作機等の開発および販路開拓	①嶺南地域に事業所を有する企業 ②上記①を含むグループ	600万円以下 （2/3以内）	9/17

【問い合わせ先】エネ研・産業育成部 ☎0770-24-7276

